

平成 30 年度

【 事業所自己評価シート 】

児童発達支援・放課後等デイサービス

グレース Colors

## 職員による自己評価

## 事業所内での分析

## 来年度に向け改善案

## ①環境面

1対1もしくは1対2で支援を行ない、1時間毎の人数を管理している。  
また、事業所の作りの問題もあるため困難な点はあるが、配置の改善余地はある。  
また、状況により、必要に応じて別室対応をしている。

## ②児童への支援内容

昨年度の反省を踏まえ、今年度は朝礼、終礼を取り入れた。支援内容の確認や振り返り、スタッフ間の情報伝達が出来ようになった。  
現状の把握等が円滑に行えるようになった。しかし、終礼時に議題であげるほどでない情報についての周知に関しては課題が残る。  
→各利用児のファイルごとに記入用紙を入れ、細かい伝達を図っていく。

個別支援計画書内容を漏れなく日々の支援に反映できるよう日々のケース記録の記入の仕方の見直しを行なった。ただ記入方法については検討の余地がある。  
→年間研修計画に入れ、研修を実施する。

項目「日頃の利用児の状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解ができて  
いるか」においては、保護者からの評価は「出来ている」であった。  
しかし、事業所としての評価は、改善の余地ありであった。  
→来年度は事業所開放日を設ける、座談会の開催によりお会いできる回数を増やしていく。

## ③関係機関との連携

区のワーカー、学校との連携は多く持つことができた。  
今年度の自立協議会に関しては、自立協議会が稼働していなかったため参加していない。  
今後の課題は、地域との繋がり構築である。  
→・地域との繋がりを構築するため、事業所開放日を作り日々の支援について知っていただく。  
・地域の商店や福祉施設等でのお手伝いをさせてもらうことで繋がり構築を行う。  
・外部団体との協働により、座談会の定期開催を行う。

## ④非常対応

緊急時対応マニュアル等のマニュアル策定をしてはいるが、マニュアル更新、保護者への周知までに至っていない現状。  
→改善策 今年度は権利擁護委員会、危機管理委員会、感染症防止委員会を立ち上げ、研修や  
実地訓練を行った。来年度はそれに加え、マニュアルの更新、スタッフ研修、保護者への周知を  
委員会ごとに行う。

## 保護者ご意見

項目：個人情報に十分注意しているか。

ご意見：必要以上にガードが高すぎる

項目：緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。

ご意見：インフルエンザについて学校以上に手続きが厳しい。

実体が合わない。

ご意見をふまえ、感染症対応マニュアルの変更を検討しご理解をいただけるよう努めていく。